

★防災クイズ 解答★

①解答 ○

地震直後は出口が大変混雑し、押し合いなどで怪我をする可能性がある。

②解答 ×

軽い運動でもいいので、体を動かすことで体力の衰えと急激な老化を防ぐ。

③解答 ○

消防法による厳しい建築基準をクリアしているため、地震に強い。

④解答 ×

電話回線がパンクし繋がりにくくなるので、電話よりもメールの方が連絡をとれる可能性がある。

★防災クイズ 解答★

⑤解答 ○

体が必要とする水分は 1.5L~2.5L です。手洗いやうがいを考えると、3.0L は必要。

⑥解答 ×

水が流せなくてトイレが詰まってしまう。プールの水など、流せば OK。

⑦解答 ○

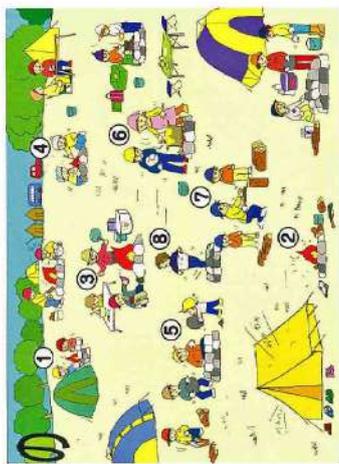
避難所で大切なことは、互いを思いやり協力すること。

⑧解答 ○

体の衛生を保つことは、抵抗力を高め、健康につながる。

★防災クイズ⑨ 解説★

4. 野外料理での危険 (総合編)



① 1. 火のそばで寝ている

張られているテントのすぐそばに、かまどが作られ火が燃やされています。このようにテントのすぐそばにかまどを作り火を燃やしていると、火の粉や炭でテントが燃える危険があります。かまどは、テントだけでなく付近に燃え移りやすいものがないかどうか、確かめて作りました。ときには強い風が吹いて、火の粉が飛び散る危険性もあるので、風向きなども十分



② 2. かまどの火が無くなる

かまどで火が燃やと燃えています。近くに人がいますが、風が吹いて、かまどの火の粉や炭が風にならば燃える危険があります。野外で火を燃やると、このように火災を防ぐために必ず「火の番」がいて火を見守ることが大切です。かまどの近くには万一の場合に備えて、水を入れたバケツを置いておくことも必要です。



③ 3. 薪が燃えている

薪が燃えているのに薪割れをつぎ足そうとしてしまいます。メチルアルコールが主成分であるセリール製の薪割れは、日中の明るいところでは炭が白くという特徴があります。このため「薪が燃えている」と思い込み、つい薪割れをつぎ足してしまいがちです。このように不田舎に薪割れをつぎ足すのは危険です。炭が白く燃え上がり、顔や手などに火傷を負う危険があります。火をつけた後の薪割れのつぎ足しは止めましょう。



④ 4. かまどの火をききながら

日常生活の中では、薪火を燃焼する機会はほとんどなくなってきました。子どもたちは火には怖く興味を持ちます。そのうちあんなに燃えている火でなく、手で火をついて遊び始めます。燃えている火をつくと、火の粉や炭で火傷をしたり、火が飛び散って周囲のものに燃え移ったりする危険があります。このような危険を防ぐために、子どもの火遊びには十分に注意しましょう。



⑤ 5. 子どもが大きな石を選んでいる

食事の準備で子どもが、かまど作りを手伝っています。大きな石を選んでいるのですが、足の上の上を落としたり、転がって燃えている石や木の根につまづいて転倒する危険があります。キャンプでは子どもが手近いきちんがなにかを落とすことがよくあります。怪我をしないように、子どもが手に持てる石は、手近く内容に合ったものを選び、事前に指導をします。怪我をしないように注意すること大切です。



⑥ 6. かまどにかけた薪の鍋を薪で焼く

よくあることですが料理に集中になり、かまどにかかっている熱くなった鍋をついとうっかりして薪手で持ち、火傷をしてしまうことがあります。このような火傷を防ぐために、野外料理では火に強い水筒の蓋や革手袋をつけるよう夏服付けましょう。(水筒の蓋は薪火を扱うときには危険です) 安全指導員会では「薪手の安全指導」を行い、その結果を「安全指導員会」のために「P.A.R.T.S」で報告してありますのでご参照ください。



⑦ 7. ナタを持つ手に薪をつきつけて薪を割っている

薪割りをしていますが、ナタを持つ手に薪をつき、薪を薪で切っています。ナタを持つ手に薪をつきつけると、ナタが熱くなりやすくなり、手元が熱くなって薪を持つ方の手を傷つけたり、ナタがすくはば返って周りにいる人に当たる危険があります。ナタで薪を割るときにはナタを持つ手は薪で、薪をつきつける手は必ず革手をつけ、切り傷や打撲の危険から身を守るようにしましょう。



⑧ 8. よそ見をしながら薪を持って近づいている

薪を持って、よそ見をしながら歩いています。前方には積み上げた石があります。このままでは石につまづいて転んでしまいます。薪の中に熱いものが入っていたりすると、大火傷を負ってしまう危険があります。この他にもキャンプ場内には、石が転がっていたり、木の根が張り出していたりして、脚がいたるところにあります。このような場所では、十分に注意して薪を持って近づきましょう。

